

## 「高円寺演芸まつり」がはじまりました！ 今回は「落語フード」を初開催！

今年で5回目を迎える「高円寺演芸まつり」が、本日6日からはじまります！「高円寺演芸まつり」は、春の大道芸、夏の阿波おどり、秋の高円寺フェスに続く、高円寺の四大イベントの一つです。15日（日）までの10日間、杉並芸術会館「座・高円寺」（高円寺北2-1-2）をはじめ、飲食店、神社、お風呂屋さん、ライブハウス、葬祭場など48会場を寄席に、70公演、130名の演者が登場！初企画として、落語に関わる料理を会場近くの17店舗で味わえる「落語フード」を開催！お腹の底からホックホクにあたたまってください！

JR高円寺駅周辺の飲食店などでは、古くから若手の落語家が寄席を開き、人々の交流の場になっていました。「高円寺演芸まつり」は、その点に着目した町会や商店街の人々が、「春の大道芸、夏の阿波おどり、秋の高円寺フェスに続く、地域ぐるみの冬のイベントをつくりたい」と実行委員会を結成し、平成21年から開催しているイベントです。去年は、10日間で約4,000名が訪れました。

5回目を迎える今回は、会場数が48になり、イベントがはじまった当初と比べると、29増えています。年々、参加・協力するお店や人が広がり、地域全体で盛り上げるイベントになっています。

その表れとして、寄席会場ではないけれども、別の角度から落語に親しめる企画が、今回初めて行われます。それは、「落語フード」です。

「落語フード」は、公演の合間や、会場から会場へと移る間にも、噺に出てくる料理や噺家にちなんだ料理で、落語に親しんでもらおうと企画されたものです。

例えば、『しわい屋（ケチな人）』という噺に出てくる梅を使って、限定うどんを提供するお店（うどん屋てんてこ）。花魁に失恋した男が甘納豆をやけ食いする『明烏』を題材に、甘納豆おこわを出すお店（ツバメおこわ）。立川談志師匠が残り物のシチューに冷蔵庫にある食材を加え、“出たところ勝負”で作ったという「談志カレー」を想像力豊かに作りあげたお店（古本酒場コクテイル）など、落語に関わる食べ物が、17の飲食店で用意されています。これらのお店は、駅や各会場等で配布するパンフレットや「高円寺演芸まつり」の公式サイトで紹介しています。

ぜひ、「高円寺演芸まつり」で、落語を聴いて、食べてお腹の底からホックホクにあたたまってください！

### ◆第5回「高円寺演芸まつり」

開催期間：27年2月6日（金）～15日（日）

※演目や会場、時間、費用等はこちらをご覧ください。

<http://www.koenji-engei.com/2015/schedule.html>

※「落語フード」のメニューや金額は、こちらをご覧ください。

<http://www.koenji-engei.com/2015/food.html>

### 【問い合わせ先】

杉並芸術会館「座・高円寺」  
総務部広報課

TEL：3223-7500  
TEL：3312-2111（代表）